

育ててくる意識

【第2章】

台風も地震も、人の手で食い止めることはできない
だからといって、手をこまねいているわけにもいかない
これからの「防災」。

災害を知り、災害に備える意識を育てたい

台風以上に怖い「地震」

県が平成15年3月に発表した東海地震にかかる被害想定によれば、予想される地震の規模はマグニチュード8。震度は、埋立地や地盤が軟弱な地域を中心に6強から7となり、地域によっては液状化の発生や津波の襲来も予想されている。また古い木造家屋が密集した地域では、建物の多くが倒壊するなどの被害が懸念されている。

マグニチュード8、震度7

東日本大震災に匹敵するほどの巨大地震だ。それが関東・中部地方一帯を襲えば、甚大な被害がおよぶことは容易に想像できるだろう。東南海地震のように連動して発生した場合には、被害の規模は想像すらできない。

この想定によると、東海地震が発生した場合、県全域で全壊する建物は20万棟以上、地震から1週間後には190万人の避難者が発生。米は最大41万キロ、飲料水は最大

5500キロリットル、その他食料や毛布、肌着などが不足すると見られている。

本町全体の震度は6弱、地域によっては6強になる可能性もあるという。東海地震の予知ができなかった場合、本町では約30人の死者、建物被害は、2600棟にのぼると見られている。



家具転倒防止の有効性

大規模地震が発生した場合、家具の転倒や食器の破片の散乱などによって、ケガを負ったり、逃げ遅れたりする被害が多数発生する。震度7では、食器棚の扉が開いて食器類が飛び散り、冷蔵庫やピアノは大きく移動してしまう、テレビや電子レンジは吹っ飛ぶといった、日常では考えられない光景が見られるという。家具の下敷きになってしまうばかりではなく、逃げ出すのに支障をきたす場合だってある。気象庁の解説では「震度5強で、タンスなど重い家具が倒れ、テレビなどが台から落ちることがある」と想定している。家具の転倒を防ぎ、避難経路を確保しておくためにも、家具の固定を進めたい。

災害伝言ダイヤル

震度6以上の地震発生時にNTTで特設される。家族や友人などの安否を確認したいときに使用。一般加入電話や公衆電話、携帯電話からも使用可能。保存期間は48時間、最大で10件まで登録できる。

録音方法

171にダイヤルする
▼ガイダンスが流れる
録音の場合 1
▼ガイダンスが流れる
自宅の電話番号を入力
▼
30秒以内で伝言を入れる

再生方法

171にダイヤルする
▼ガイダンスが流れる
再生の場合 2
▼ガイダンスが流れる
自宅の電話番号を入力
▼
伝言が再生される

非常持ち出し品 チェックリスト

(用意したらし点を記入)

1次持ち出し品(地震発生後すぐに持ち出す)

- 飲料水 □ 懐中電灯 □ ラジオ □ 応急医薬品 □ 持病の薬 □ タオル □ 現金(硬貨も) □ 軍手 □ ティッシュ □ 生理用品 □ ヘルメット □ マスク □ 靴 □ ライター □ マッチ □ 笛

2次持ち出し品(落ち着いたら家に戻って持ち出す)

- 飲料水(1日1人3リットルが目安) □ 非常食(乾パン・アルファ米・缶詰・インスタント食品など) □ 燃料(卓上コンロ・固形燃料など) □ 衣類 □ 洗面用具 □ 毛布 □ 寝袋 □ ラップやアルミホイル □ 雨具 □ ポリタンク □ ガムテープ

※最低3日分の生活用品です(一人当たり)。寝室や玄関など、数カ所に置くと効果は高まります。

消火や救助の大変さ実感

中川根中学校2年生の小田直樹さんと澤谷大晟くんは8月18、19日の両日、金谷消防署川根北分遣所(藤川)で消防士と救急救命士の仕事を体験した。

18日は、分遣所員から施設・設備などの説明を受けたあと、規律訓練を実施。きびきびした動作の一つ一つに、2人の表情が引き締まった。

2日目、救急車の装備の説明を受けた2人。充実した機能に、感嘆の声を上げた。

実践形式の訓練では、放水訓練と山岳救助訓練を体験。放水訓練では、防火服を身にまとい、火の元まで全力疾走して一気に放水。分厚い防火服の下は汗でぐっしょりになっていった。山岳救助訓練では、ロープを使って人の体をつり上げる困難さを体験した。滑車の仕組みを利用した「3倍力」という少ない力で重いものを引き上げる方法などを実地で学んだ。

「きつかったが、今後に役立つ知識や技術を学ぶことができて良かった」と話す2人。人命や地域を守る仕事を体験したことで、防災意識の大切さを実感した様子だ。



中学生が肌で感じた
人を、地域を守る意識



生活に役立つ方法を学べた

体を酷使する仕事を体験してみたいと思いここを選びました。人の命を守る仕事を体験してみたかったです。人を運ぶ担架には山岳用と水難事故用では種類が違うなど知らないことも数多くありました。訓練はきつかったけれど、心肺蘇生法など生活に役立つことを体験できて良かったです。

澤谷大晟さん(中川根中学校2年・地名)



いざというとき進んで実践

地域を守る仕事をする人たちを見て、カッコいいなあと思っていました。訓練は、つらいこともあったけれど、その分、教えてもらったことがしっかり身についたと思います。これから実践していきたい。いざというときには、自ら進んでやっていきたいと思っています。

小田直樹さん(中川根中学校2年・藤川)